

特別勘定クォーターレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所:アパディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■ 基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	3.84%	▲2.86%	0.25%	▲8.70%	18.78%

■ 資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	51.65%	50.00%	1.65%
北米地域	30.49%	31.33%	-0.84%
欧州(除く英国)	8.60%	8.63%	-0.03%
英国	3.52%	3.60%	-0.08%
日本	6.57%	4.20%	2.37%
香港・シンガポール	0.44%	0.87%	-0.44%
豪州・ニュージーランド	2.03%	1.37%	0.66%
債 券	47.85%	50.00%	-2.15%
米ドル圏	18.44%	18.67%	-0.22%
欧州(除く英国)	15.87%	16.97%	-1.10%
英国	2.92%	3.02%	-0.10%
日本	10.61%	11.35%	-0.74%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

■ 通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	52.24%	50.16%
ユーロ圏	24.02%	23.77%
イギリスポンド	7.17%	6.62%
豪ドル(含NZD)	1.86%	2.08%
スイス・フラン	1.77%	1.82%
日本円	12.94%	15.55%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称	グローバルマーケット型
主な運用対象の投資信託	世界バランス・ファンド (適格機関投資家専用)
投資信託の運用会社	アパディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
ユニット・プライスの騰落率	3.55%	▲3.00%	▲0.33%	▲9.37%	13.97%	42.88%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現 預 金	4.4%
投 資	95.6%
合 計	100.0%

■ 上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 150)

株 式	国名	業種	投資比率
CVS HEALTH CORP	アメリカ	生活必需品	2.25%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	1.95%
ORACLE CORP	アメリカ	情報技術	1.89%
ROCHE HLDG AG	スイス	ヘルスケア	1.86%
EOG RESOURCES INC	アメリカ	エネルギー	1.81%
NOVARTIS AG-REG	スイス	ヘルスケア	1.71%
PEPSICO INC	アメリカ	生活必需品	1.59%
SAMSUNG ELECTRONICS CO LTD	韓国	情報技術	1.32%
VODAFONE GRP PLC	イギリス	電気通信サービス	1.23%
PHILIP MORRIS INTL	アメリカ	生活必需品	1.19%
合計			16.80%

債 券	クーポン	償還日	投資比率
カナダ国債	1.250	2018/02/01	3.52%
イタリア国債	0.700	2020/05/01	2.95%
アメリカ国債	0.625	2017/07/31	2.44%
アメリカ国債	1.375	2020/08/31	1.75%
フランス国債	0.000	2020/05/25	1.40%
アメリカ国債	2.500	2045/02/15	1.35%
アメリカ国債	0.500	2016/06/30	1.33%
メキシコ国債	10.000	2024/12/05	0.92%
アメリカ国債	0.375	2025/07/15	0.79%
オーストラリア国債	1.750	2020/11/21	0.78%
合計			17.23%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

- (1月) 北朝鮮による核実験などの地政学的リスクも認識され、一時は16,000円近辺に達するなど大きく下落しました。
- (2月) 引き続き大幅な下落となり、円高の進展を受けて他の先進国以上に下落しました。
- (3月) 金融政策の現状維持が確認され、対米ドルでは円高が一服したこと等から株価は上昇しました。

・日本債券

- (1月) 月末には日銀のマイナス金利導入により、10年国債利回りは0.095%まで低下しました。
- (2月) 日銀のマイナス金利を背景に利回りはマイナス圏に突入し、10年国債利回りはマイナス0.065%まで低下しました。
- (3月) プラス利回りの超長期債を中心に更に利回りが低下しました。

・外国株式

- (1月) 中国上海株式市場の急落等を受け世界的に大幅下落となりました。
- (2月) 日本が約9%、欧州が約3%の下落、一方で米国および英国は横ばいでした。
- (3月) 原油価格の大幅上昇等を好感し、資源国を中心として世界的に上昇しました。

・外国債券

- (1月) 米国の2015年10-12月GDP速報値が前半期からの急減速を示し、景気への不安から英国も利上げに慎重となるなど先進国を中心に利回りが低下しました。
- (2月) 米国の利上げペースが鈍化する見通しから、景気不安を背景に世界的に利回りが低下しました。
- (3月) ECBの追加緩和があった欧州を中心に、資源国やエマージング国で大きく利回りが低下しました。

・為替

- (1月) 円は上昇基調から日銀のマイナス金利導入を受けて米ドルおよびユーロに対して急落し、月間ではやや円安となりました。
- (2月) 日銀のマイナス金利導入の反動もあって円は全面高に転じました。
- (3月) 米国の想定される利上げペースが年2回に鈍化したことから、米ドルは対主要通貨で全面安に転じました。

運用概況

- ・今四半期(2016年1月~3月)のファンドのパフォーマンスは、基準価額ベースで-2.86%となりました。月別に見ると1月が-2.88%、2月が-3.68%、3月が+3.84%となります。円は全面高から為替はマイナスに寄与し、債券は世界的な利回り低下によりプラスの貢献でしたが、日本および欧州で株式相場が大きく下落したことで基準価額は下落しました。
- ・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを上回りました。その主なプラス要因となった銘柄選択効果は、株式部門では1月に米国で市場ベンチマークに比べて小幅な下落にとどまり、2月には日本で同様に小幅な下落にとどまったことで大きくベンチマークを凌駕し、債券部門ではデュレーションを短めにしてきた日本でややマイナスとなりました。資産および地域配分効果において、株式では市場全体が反発した新興国への配分がプラスに寄与しました。為替は、全般に中立の配分となり、寄与は限定的となりました。
- ・今四半期の資産配分については、期初の株式のオーバーウェイト、債券のアンダーウェイトから中立の方向へ調整しました。株式については、引き続き日本をオーバーウェイトとし、欧州は若干オーバーウェイトから中立へ、北米地域に加え、引き続き英国や香港・シンガポールをアンダーウェイトとしました。新興国市場にも投資を継続しています。債券については、現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトを継続し、概ね海外では引き続き中立的な配分としました。為替に関しては、期初には米ドルのオーバーウェイト、ユーロを中心としてその他外貨のアンダーウェイトとしていましたが、期末に向けて全般的に中立へ変更しました。

運用方針

- ・株式市場は、米国の9年半ぶりの利上げを機に調整が続いたものの、このところ米国を中心に戻り歩調となっています。一方、債券利回りの急激な低下には歯止めがかかりつつあるため、株式、債券のウェイトについては中立とする方針です。
- ・株式については、日本のオーバーウェイトを継続し、新たに豪州・ニュージーランドをオーバーウェイトする一方、北米地域、英国および香港・シンガポールをアンダーウェイトする方針です。
- ・債券については、現預金相当分も含め日本をアンダーウェイトする予定で、他の地域については中立を継続する方針です。
- ・為替に関しては、大きなウェイト付けは行わず、全般に中立とする予定です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して(年率 0.75% +運用実績に応じた費用 ^(※))/365日を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が 年率1.5%を超過した場合のみ、超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.7344%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「スイス年金」は現在販売しておりません。

[募集代理店]

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ / <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>